

令和7年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立池上小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・造形活動への意欲、関心は概ね高く、楽しんで造形活動に取り組むことができた。
- ・はさみやカッター、金槌、のこぎり、彫刻刀などの道具を、安全に留意しながら活用し、基礎的な技能の習得が図れた。
- ・自己選択、自己決定の機会を多く設け、意欲的に作品づくりに取り組むことができた。

(2) 課題

- ・時間配分や見通しをもって作品を仕上げるのが苦手な児童がいる。
- ・技能面では個々の経験の差が大きく、経験の少なさによっては道具の使い方や片付け方が不十分なことがある。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・作品例を見せ、実演や動画等を交えながら、手順や材料・用具の扱い方をしっかり把握させてから活動に入る。 ・材料や用具に触れたり試したりする時間をより充実させる。 ・個別指導を丁寧に行い、児童の実態に応じて一緒に作業をすることで、具体的な表現の仕方や材料の扱い方を指導する。	・自分が試したいことを表現できるよう、身近な材料などを用いて作品作りに取り組むよう題材を設定する。 ・作業の実演や、意欲を喚起する素材や技法を示し、選択したり参考にしたりできるようにする。 ・友達同士で作品を鑑賞し合う場を設定し、作品のよさに気付かせる。 ・形や感触からどのようなことを発想し、表現したのか、自分の考えを伝え合い、作品づくりの参考にできるようにする。	・生活の中などから児童に身近な題材を選び、児童の実態に合った素材や表現方法を吟味する。 ・目標達成への期待やよりよい作品作りへの意欲をもたせる見本や作品例を示す。 ・お互いの作品の良い点を認め合うことで、製作の楽しさをより味わえるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・さまざまな素材に触れ、たくさんの用具や材料を使う経験をさせる。 ・実演を交えて指導をしていくことで、具体的な表現の仕方や材料の扱い方を指導する。 ・技術を習得する時間を十分に確保し、用具の使い方の基礎基本が身に付くように、机間指導を通して、個別指導を行う。	・自分が表現したいことに合わせて、表現ができるような題材を設定する。 ・活動の実演や、意欲を喚起する素材や技法を適宜示し、制作の見通しをもたせるようにする。 ・題材の予定時数を掲示し、計画的に作品づくりに取り組ませるようにする。 ・友達同士で作品を鑑賞し合い、それを発表する活動を取り入れる。	・児童の実態に合った素材や用具、表現方法をよく考える。 ・目標達成への期待をもたせる見本や作品例を示す。 ・活動の実演や作品鑑賞の際に ICT 機器を用い、お互いの作品の良いところや面白いところを積極的に認め合えるようにする。 ・片付けの習慣を定着させるため、毎回片付け時間を確保し、全員で片付けに取り組ませる。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・さまざまな素材に触れ、用途に合った用具や材料を自ら選んで使う経験をさせる。 ・実演を交えて指導をしていくことで、具体的な表現の仕方や材料の扱い方を指導する。 ・机間指導を通して、一人一人の表現したいことや児童の実態に合った用具や材料の扱い方を指導する。	・試したいことに挑戦し、今まで学習した表現方法や材料、道具などを組み合わせて、試行錯誤しながら表現を工夫できる題材を設定する。 ・題材の予定時数を掲示し、計画的に作品づくりに取り組ませるようにする。 ・友達と作品を見合う活動の中で、様々な表現方法や工夫に気付くことができるようにする。 ・どのように良いと思ったのかなど、より作品の良さを感じ取れるような声かけをしていく。	・児童の実態に合った素材や用具、表現方法を吟味する。 ・目標達成への期待をもたせる見本や作品例を示す。 ・活動の実演や作品鑑賞の際に ICT 機器を用い、お互いの作品の良いところや面白いところを積極的に認め合い、活動意欲に繋がられるようにする。 ・片付けの習慣を定着させるため、毎回片付け時間を確保し、全員で片付けに取り組ませる。